

川崎医療短期大学と公益財団法人岡山市ふれあい公社との
「川崎医療短期大学認知症サポート人材育成に関する事業連携」実施取り交わしによる
『地元産業界等との地域の課題解決に向けた連携事業』（2026年度）

事業名	認知症サポート人材育成事業
連携している地元産業界等の組織名称	公益財団法人 岡山市ふれあい公社
地域の課題	高齢化の進行に伴い、認知症を抱える方々の増加が顕著となっている。認知症の方やその家族が、地域の中で孤立することなく、安心して暮らし続けられる環境の整備は重要な課題である。現状では、認知症に対する理解不足や偏見があり、地域全体としての支援体制も十分とは言えない。こうした状況を改善するためには、地域住民一人ひとりが認知症について正しく理解し、支え合う「認知症フレンドリー社会」の構築が課題である。
課題解決に向けた目標	地域住民に認知症に関する正しい知識を普及し、認知症の方やそのご家族を支援できる人材として「認知症サポーター」を養成することで、誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指す。
課題解決に向けて実施する取組内容	1. 認知症サポーター養成講座の啓発活動 本学開催の行事時での案内、テレビでの宣伝活動、チラシ配布を通して、地域住民を対象とした本学が開催する認知症サポーター養成講座への参加を呼びかける。 2. 認知症サポーター養成講座の開催 岡山市ふれあい公社と連携し、地域住民を対象とした認知症サポーター養成講座を企画・開催する。講座では、認知症に関する基礎知識や支援の方法について学ぶ機会を提供する。 3. 認知症サポーター資格取得者を増やす 本学が主体となって認知症サポーター養成講座を継続的に開催することで、近隣住民の認知症サポーター資格取得者数の増加を目指す。 4. 認知症の当事者の思いを聴く場を作り認知症への理解を深める 岡山市ふれあい公社や川崎医科大学高齢者医療センターと連携し、認知症当事者の方に協力を得て講座に参加していただく。講座内で当事者の方の思いや体験を直接聴く場を設け、認知症に対する理解を深める機会とする。 5. 認知症サポーターとしての視点と意識を高める 認知症カフェやサロンなど地域で気軽に参加できる活動を紹介し、講座終了後も継続的に関わるきっかけとなるような情報提供や働きかけを行う。 6. キャラバン・メイトを増やす 本学教職員の中から、認知症サポーターの講師として活動できる「キャラバン・メイト」を増やすことで、講座の継続的な実施体制を強化し、地域への支援を広げていく。
事業成果の地域へのフィードバック	事業成果、評価等をホームページに公開し、次年度の認知症サポート人材育成事業促進につなげる。
連携事業の評価等	2026年7月4日（土）14:10～15:40に認知症サポーター養成講座を開催し、受講者31名が認知症サポーター養成講座修了者となった。講座終了後には参加者アンケートによる評価を実施するとともに、連携機関である岡山市ふれあい公社と協働して講座全体の評価を行った。 今回の講座では、認知症当事者自身が思いを直接発信できたことが、参加者にとって「認知症を自分ごととして捉える」重要な契機となり、参加者・連携機関双方から高い評価を得た。また、岡山市ふれあい公社と本学がそれぞれの役割を明確にし、講義の構成や進行において互いの専門性を活かした協働ができた点も、連携事業として大きな成果であった。 一方で、今後の課題として、川崎学園の特徴をより反映した講座内容の企画が求められている。具体的には、川崎医科大学高齢者医療センターで実施している「本人ミーティング」の紹介など、学園独自の取組を講座に組み込むことについて、連携機関から助言があった。 これらの評価内容は関係者間で共有し、次回以降の講座および今後の連携事業の質向上につなげていく。